

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12535

研究課題名(和文)「戦争花嫁」移民およびその子供と孫世代に関するオーラルヒストリー研究

研究課題名(英文) Oral History regarding "War Brides" Immigrants and their Children and Grandchildren

研究代表者

土屋 智子 (TSUCHIYA, Tomoko)

日本女子大学・文学部・准教授

研究者番号：50611000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：2019年8月に放映されたNHKBSドキュメンタリー「戦争花嫁たちのアメリカ」を制作されたディレクターにお話を伺うところから調査を開始した。実際に「戦争花嫁」として移住した女性たちだけでなく、彼女たちの子供世代および孫世代への取材も含まれており、意義深いものであった。2015年に公開されたドキュメンタリー映画「七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語」の制作者の一人、ルーシー・クラフト監督には2016年に学術シンポジウムを開催した際、制作過程からその意図までお話を伺う機会を得て、研究成果をまとめたものは「次世代が語る『戦争花嫁』移民」と題して日本女子大学文学部紀要71号に掲載されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国に渡った女性移民は政治や外交といった場面に表れないため資料や記録がほとんどなく、日本人女性移民に関する研究はまだ希薄である。このため女性移民史の中でも比較的資料が残っている花嫁移民に着目し、日本から国外へ渡った日本人女性移民史の発掘に取り組んできた。本研究ではアメリカ本土およびハワイに移住した「戦争花嫁」移民の子供および孫世代が、どのように彼らのルーツがある日本を理解しているのか、そして日本とつながりがあるのか、彼らが持つトランスナショナルな価値観、自己認識の特殊性や類似性はいかなるものかについてを明らかにする。

研究成果の概要(英文)：I began my research by interviewing the director who produced the NHK BS documentary "American War Brides" that aired in August 2019. This documentary not only featured women who immigrated as "war brides" but also included interviews with their children and grandchildren, making it a significant piece of work. In 2016, I had the opportunity to speak with Lucy Craft, one of the directors of the 2015 documentary film "Fall Seven Times, Get Up Eight: The Japanese War Brides," during an academic symposium. Our conversation covered the production process and her intentions behind the film. The results of this research were compiled and published in the 71st issue of the Journal of the Faculty of Literature at Japan Women's University under the title "Immigration of 'War Brides' as Told by the Next Generation."

研究分野：アメリカ研究

キーワード：戦争花嫁

1. 研究開始当初の背景

外国に渡った女性移民は政治や外交といった場面に表れないため資料や記録がほとんどなく、日本人女性移民に関する研究はまだ希薄である。このため女性移民史の中でも比較的資料が残っている花嫁移民に着目し、日本から国外へ渡った日本人女性移民史の発掘に取り組んできた。本研究ではアメリカ本土およびハワイに移住した「戦争花嫁」移民の子供および孫世代に聞き取りに関する調査を行う。彼らのルーツがある日本に関する理解や日本とのつながり方、彼らが持つトランスナショナルな価値観、自己認識の特殊性や類似性を明らかにする。

2. 研究の目的

すでに申請者はアメリカ本土およびハワイに渡った日本人女性移民の聞き取り調査から、1. アメリカ本土およびハワイに渡った「戦争花嫁」が日本社会、アメリカ社会、日系社会へ及ぼした影響、2. アメリカ本土へ移住した「戦争花嫁」とハワイへ移住した「戦争花嫁」の類似点と相違点を明らかにしている。しかし、日本からアメリカ本土およびハワイへ渡った「戦争花嫁」移民の子どもおよび孫世代がルーツのある日本をどのように理解しつながりを持っているのか、については十分に明らかにされていない。本研究では「戦争花嫁」移民およびその子孫が持つトランスナショナルな価値観や自己認識の特殊性や類似性を明らかにする。

3. 研究の方法

すでに DVD に記録されているインタビュー調査のデータを文字起こしして、発話の内容を文字化した。本研究はすでに 2004 年にアメリカ本土のハワイで実施したインタビュー調査を発展させる目的があるが、今回はハワイで実施した女性たちのインタビュー記録を文字化し、「戦争花嫁」移民自身が語る移住について新たな形式で記録することができた。また、渡航が叶わない状況の中、本研究の目的である、「戦争花嫁」移民の子供および孫世代がルーツのある日本をどのように理解してつながりを持っているのか、また、「戦争花嫁」移民およびその子孫が持つトランスナショナルな価値観や自己意識の特殊性を明らかにする、という目的を果たすため、2つの資料に着目した。一つは、2015年に公開されたドキュメンタリー映画「七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語」、もう一つは 2019年8月に放映された NHKBS ドキュメンタリー「戦争花嫁たちのアメリカ」である。「七転び八起き」の制作者の一人であるルーシー・クラフト監督には 2016年に学術シンポジウムを開催した際、制作過程からその意図までお話を伺う機会を得ている。このドキュメンタリー映画を製作した3人の監督はみな日本から移住した戦争花嫁の娘たちであり、自分の母親のアメリカへの移住をどのように理解したのかについてよく反映されている。さらに 2019年8月に放映された NHKBS ドキュメンタリー「戦争花嫁たちのアメリカ」はその年の秋にディレクターの方にお話を伺う機会を得ている。「戦争花嫁たちのアメリカ」でも女性移民の子供および孫世代の理解が扱われている。監督およびディレクターの話と共にこれらの作品分析を行った。

4. 研究成果

ハワイへ渡った「戦争花嫁」移民のインタビューデータの文字起こしを行い、女性たちがハワイへ渡ったことに関してどのように語るのか、戦後という特殊な背景をどのようにとらえているのかについて再考を行うことができた。また、結婚や移住の特殊性から、ハワイにわたってからの現地のコミュニティとのかかわり、仕事や子育てを通してのハワイ主流社会とのかかわり、そして日系社会とのかかわりにどのような影響があったのかという点についても再考することができた。例えば、日本人にとって敗戦後の結婚という国家の権力関係は、その後渡米した先での夫婦関係にも影響を及ぼすのだろうか、もしそこに変化が生じるのであればそれはハワイという多文化、多人種社会の寛容性によるものだろうか、または「戦争花嫁」移民の主体的な意思によるものが強いのであろうか、という問いにも向き合うことができた。さらに、アメリカ人男性と日本人女性の国際結婚が珍しくなくなった時代に、6, 70年前にアメリカへ渡った「戦争花嫁」移民の女性たちはどのようにハワイ社会の一員となり、日本にどのような想いを持ち、戦後を生き抜いたのであろうか、という問いにも向き合うことができた。「戦争花嫁」の一人、スタウト和子氏は「戦争花嫁」移民たちは現代の国際結婚の先駆けとして草の根の活動を行ったと話している。そして、現代のアメリカ人男性と日本人女性で形成された家族やその子供たちが多く通う日本人補習校のレインボー学園を観察する貴重な機会を得た。「戦争花嫁」移民の女性たちが戦後のハワイ社会で築いたことは現代までどのようにつながっているのだろうか。歴史の継続性に注目して、これらの問いの答えを明らかにする必要があるという認識を得る

ことができた。また、2015年に公開されたドキュメンタリー映画「七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語」と2019年8月に放映されたNHKBSドキュメンタリー「戦争花嫁たちのアメリカ」から得た戦争花嫁移民に関する知見は、次世代が語る「戦争花嫁」移民（日本女子大学紀要 文学部、2022年）、21-32. にまとめられている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 土屋智子	4. 巻 71
2. 論文標題 次世代が語る「戦争花嫁」移民	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 21 - 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Tomoko Tsuchiya
2. 発表標題 Multicultural/multiracial Families with the Idea of the Democratic Nation at the Beginning of the Cold War
3. 学会等名 The Maple Leaf and Eagle Conference 2020, Helsinki, Finland (Zoom)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋智子
2. 発表標題 New Understanding of Asian Women's Historical Migration In the Case of Japanese War Brides
3. 学会等名 The Migration Conference 2019 Bari (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

JWUシーズ

https://www3.jwu.ac.jp/research/research-database/seeds_pdf/PDF2_bunn/2-2_tsuchiya.pdf

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------